元気っ子　Ｎｏ316 ながさわ保育園

園　長　　中　瀬　弦　偉

暑かった夏は、早く冬になって寒くなって欲しいと思っていましたが、いざここまで寒くなると、あの暑い夏が恋しくなります。子どもたちも急激な気温低下に体調を崩しやすくなっていると思いますので、ご家庭でもお子さんの体調管理や服装等に十分ご注意下さい。

先月より正面玄関前に絵本の貸し出しを行う「ながさわ文庫」を開設しています。当初、どれくらいニーズがあるかな・・と思っていましたが、思いのほか借りていかれる方が多く、嬉しく思っています。まだ冊数が少ないですが、随時追加しながら貸し出せる本を増やしていこうと思いますので、時々覗いてみて下さい。また保護者用に育児関連の本も数冊ご用意しております。是非お手に取って、日々のお子さんとの関わりの参考にして頂けたらと思います。借りたい本がありましたら、事務所までお声掛け下さい。またこんな本が読みたい等リクエストも是非お伺いさせて下さい。

大人も子どももですが、「活字離れ」が拡がっています。ここでは子どもに焦点を当てますが、子どもにとって文学作品を読むことが楽しいと感じるのは、その主人公に身を寄せ、そこで起こる様々な出来事を見守っていくことにあると思います。様々な体験や冒険をしていきながら、何を考え、どんな工夫をし、様々な登場人物と出会う中で、どのように困難を乗り越え、最後に思いを達成するかを共感していくことにあると思います。年齢が低いころは、深い読み取りというより、単に「面白い」や「かわいそう」という感想でいいと思います。大人はそれに対して「そうだね、面白いよね」「ほんと、かわいそうだね」と子どもの気持ちに共感してあげることが大切だと思います。また年齢が高くなると、深い読み取りの中で、絵や写真がない分、想像力を働かせて自分の頭の中に場面ごとのイメージを作ります。そしてより高度な表現でその物語の感想を口にできるようになり、その感想を口にするための言葉の獲得も本の読み聞かせから得られるものが大きいと思います。

今の日本の子どもたちは、言葉の悪い子が増えているように感じます。おそらくテレビや動画サイトの影響が大きいのだと思います。テレビや動画サイトが完全に悪だとは思いませんが、言葉や象徴機能の獲得期にある幼児期は文学作品等の読み聞かせも大切にしないといけないと思います。

幼児向けの文学作品も今後、お貸出しできるようにしていきますので、是非ご活用下さい。

先日の朝日新聞に大阪の田島南小学校の取り組みが紹介されていました。この学校では小学校三年生が「生きる」教育として子どもの権利条約を学んでいるそうです。子どもの権利条約については以前に元気っ子でも紹介させて頂いたこともありますが、保育においてもとても大切にしています。こちらの本も「ながさわ文庫」にございます。四コマ漫画で分かりやすく紹介されていますので、また手に取ってご覧下さい。

12 月もどうぞよろしくお願い致します。